

# ウェルカムオキナワ

沖縄県立北部農林高等学校 3年生 城間 耶弥

ここ沖縄県は、観光立県として有名で、去年は、観光客数が、約九百五十八万人で、五年連続過去最高記録を更新しました。また、リピーターも多く、一ヶ月の来県数が七十万人を下廻る事はなく、八月に至っては百万人を突破したそうです。

沖縄ではテレビのCMで、「ウェルカムンチュになろう」と言う程、観光に力を入れています。ここ沖縄には、青い海、青い空、やんばるの自然、文化や歴史など自慢出来る観光地がたくさんあります。

これからの沖縄の観光は、どうあるべきか、私なりに考え、二つの提案をしたいと思います。

第一の提案は、「沖縄時空間」を提供することです。沖縄の観光地などに行ってみると、県外や海外の旅行客に合わせて、観光地が変わっているのではないかと思います。私が思う「沖縄時空間」とは、沖縄の元気なおじやおばあとの関わりなどを増やし、沖縄の「なんくるないさー」や「あわていらんきよー」「よんなーよんなー」といった「しまくとぅば」が飛び交い、昔のとなりの人同士が助け合う様な時間を観光の中で作ることです。その沖縄独自の「うちなーたいむ」でゆっくりと時間が過ぎていく。現実からは離れ、心と体で感じ体験をしてもらえる場所を作っていくのはいかがでしょうか。地元の人と話すことで沖縄の本当の良さを観光客の皆様に分かってもらえるのではないのでしょうか。どれだけ観光ガイドさんがしゃべっても、伝わらない沖縄も沢山あると思います。私は、沖縄の良さをもっと観光客に伝えていけたらと思っています。

もう一つの提案は、障害者やその家族の方々が、気軽に旅行が出来たり、また、介護を必要とするお年寄りとその家族に旅行や観光を楽しんでいただくことです。介護をしているその家族の方々と本人と一緒に楽しく観光が出来たら、すてきな思い出になるのではないかと私は思います。その為に、宿泊するホテルなどは、バリアフリー施し、手すり・点字・車イス・オフロの介助などのサービスを用意してほしいと思います。

また、私が一番問題視していることは、食事の面への配慮です。なぜならば、私が宿泊して食事をしていても障害者や介護が必要な人と食事をした事がありません。健常者と食事を取る事が難しいからと出かけること自体をあきらめてしまっているのではないかと私は思います。

その問題を解決するために、サポートしてくれる人を配置し、その家族の支援してあげたり、メニューも栄養士が、介護食などを提供するなどもっと家族やまわりの人と食事が出来たらと思います。

私は、沖縄独特の食べ物や観光地の「うちなーパワー」を観光客に伝えられたらと思います。私がなぜこんなに観光に力を入れたいかと言うと、ある体験が私の心を動かしたからです。それは、家族とある観光地の海に行った日のことです。一人の女性が浜辺で海をずっと眺めていました。何となく声をかけて少しお話しをしていると、ひとり旅で来ていたその方は、かつては家族でよく沖縄に観光に来ていたそうです。特に娘さんが沖縄の事が大好きでしたが、その娘さんが病気になり、旅行が出来なくなり、そして亡くなられたそうです。その娘さんは亡くなる直前まで「沖縄の海が見たい」と言っていたので、娘さんの形見をもって旅行に来たのでだと私たち家族に話してくれました。その女性は、涙ぐんでいましたが、話しているうちに笑顔になりました。私はその女性の話しを聞いた時、初めて沖縄の海のあたたかさや大切さに気づきました。私たち、地元の人からすれば、青い海、青い空は当たり前ですが、その青い海や空が人の心をあたたかくしたりしてくれる場所になっているのだと感じました。ですから、私は、うちなーんちゅの心や、自然のパワーが観光をしながらかつての人に伝わって、今後の生きていく力に少しでもなれたらなと思うのです。

沖縄はこれまで、とても独特で複雑な歴史を歩んできました。

「唐の世」から「大和の世」

「大和の世」から「アメリカの世」

「アメリカの世」から「大和の世」へと、沖縄は、どんな時代にも順応して生きてきました。その先人達が、人を思いやり、助け合い、築いてきたのが、今の沖縄なのだと思います。

その沖縄の力を今後の観光に取り入れ、沖縄を訪れる、すべての人たちの人生の一ページを、すてきに作ってもらおうお手伝いが、この沖縄の地で出来たら最高ではないでしょうか。

今よりも、もっと輝ける沖縄へ。

すべての人々がこの美しい沖縄を訪れる事が近い将来出来る事を信じて。